

第2回「帝銀事件第二十次再審請求の現状」ごあいさつ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学平和教育登戸研究所資料館 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山田, 朗 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/20491

第9回企画展「帝銀事件と登戸研究所」記録 特別プログラム講演会第2回「帝銀事件第二十次再審請求の現状」

ごあいさつ

山田 朗

明治大学平和教育登戸研究所資料館長

皆さん、こんにちは。本日は大変お寒い中、明治大学生田キャンパスにお越しいただき、ありがとうございます。私は明治大学平和教育登戸研究所資料館の館長の山田です。よろしくお願い申し上げます。

実は今日1月26日は、帝銀事件が起きたその日です。71年前〔1948年〕の今日、帝銀事件は起こりました。そういう日ですから、私どもの資料館で今やっております企画展の関連イベントとして、この日にどうしてもイベントをやりたいと考えました。現在、帝銀事件の第20次再審請求がおこなわれております。その再審請求弁護団の先生方と相談をいたしまして、ご協力をいただきまして、今日の企画を開催することができました。ありがとうございます。本日は特別に午後4時45分まで資料館を開館しておりますので、まだ企画展をご覧になっていらっしゃる方も是非この講演会の後にでも見学する事ができますので、お立ち寄りください。

おかげさまで、この企画展、沢山の方にご来場いただいております。やはり、帝銀事件のインパクトは大きなものがあります。この帝銀事件と登戸研究所の関係について一言触れさせていただきますと、帝銀事件は1948（昭和23）年1月26日に起きましたが、その帝銀事件に使われた毒薬が登戸研究所、これは陸軍の特殊な研究所で「九研」と申します。「第九陸軍技術研究所」というのが正式名称ですので「九研」と呼んだりします。その九研で作られた毒薬、青酸ニトリールが使用されたのではないかと当初から語られております。また、登戸研究所関係者が捜査の過程で様々な証言をしております。当初は「青酸カリではありえない」という様な証言をしていた有力な登戸研究所の所員もいます。ところが、平沢さんが逮捕された後になって「あれは誰にでも手に入る青酸カリだ。青酸カリでおこなわれた犯行なのだ。」とその方は証言を変えてしまいます。それはどうしてなのか、なかなか難しい問題ではあります。当時、日本国内では戦犯裁判がおこなわれていた。1948年というのは東京裁判の判決が出た年でもあります。BC級戦犯裁判も並行しておこなわれていたのですが、前年の1947（昭和22）年にアメリカ側は731部隊関係者に対する免責を決めました。情報を提供することと引き換えに、

そういった人たちを免責する（戦犯として訴追しない）、そういうことがおこなわれていたのです。これは明らかにそれまでの占領政策とは異なる、しかも同時並行で全く違うことがおこなわれた。一方で戦犯裁判をやりながら、もう一方で免責をする。こういうことがちょうど帝銀事件の捜査の過程とほぼ重なる時期におこなわれている。登戸研究所関係者も基本的にそのような免責措置を受けたと考えられます。

登戸研究所も人体実験をやっていました。何のためかという、暗殺用毒物・青酸ニトリルの開発・製造のために、人体実験を中国（南京）でおこなっていました。中国で人体実験をやったことを、まさに毒物の専門家として捜査過程に登戸研究所の関係者が証言をする。それから裁判過程においても証言をすることがありました。ですから、帝銀事件と登戸研究所というのは、切っても切り離せない問題であります。

実は、アメリカの占領政策が大きく転換する中で、登戸研究所関係者は米軍に雇われていくことになるのです。免責されただけではなくて、後には米軍組織の中で米軍の秘密戦に関わっていく。こういう様な流れがございます。ですから、1945年8月をもって登戸研究所はすべて終わってしまったのではなくて、戦後も米軍の秘密戦の中でその人々はずっと活動し続ける。ちょうどその中で帝銀事件があった訳です。戦後史を見直すということからも、帝銀事件の内容を掘り下げていく価値はあると思いますし、そもそも帝銀事件そのものがまだ終わった訳ではありません。現在、第20次再審請求がおこなわれております。私たちはこの帝銀事件を決して風化させてはなりませんし、戦後の非常に大きな冤罪事件として、これを多くの人に広めていくことが必要だと考えまして、今回の企画展、そして今日の講演会をやらせていただきました。

それでは、まず「第二十次再審請求に提出された自白・目撃供述の心理学鑑定書」という事で最初に浜田先生からご講演をいただきたいと思います。お願いいたします。

〔追記〕

本稿は、2019年1月26日（土）に明治大学生田キャンパス中央校舎6階メディアホールにて開催された第9回企画展特別プログラム講演会第2回「帝銀事件第二十次再審請求の現状」の書き起こしを加筆・修正したものです。本文中の（ ）内は資料館による補足です。